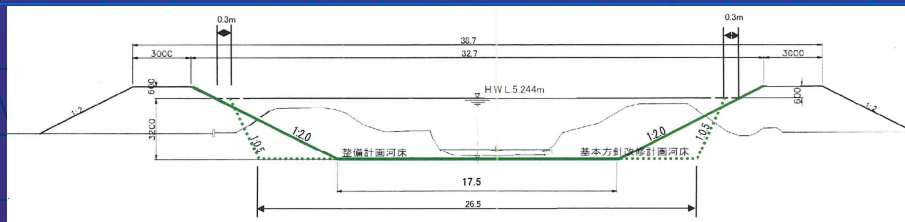


### 3. 真亀川の現状(中橋～田間2排水路)

### ③河川の状況



8

### 3. 真亀川の現状

### ③河川の環境状況

#### 事業実施区間における法面植生の回復



9

3. 真亀川の現状 ③河川の環境状況

適切な維持管理による河川利用空間の確保



仲蔵橋周辺(河口から約2.6km)

平成6年度、ラブリバー制度に基づき整備された河川公園。

隣接する小学校の子供達の環境学習等に、今でも利用されている



ラブリバー制度...地域住民で構成される河川愛護団体、地元市町村、河川管理者の三者がそれぞれの役割を分担・連携して、住民とともに河川の良い維持と潤いのある水辺空間の形成を図るための制度

3. 真亀川の現状 ③現状からみる改修の必要性



- 洪水位が高く、東金市街地が排水不良となる内水被害が発生。
- 流域内の開発等による市街化の増加

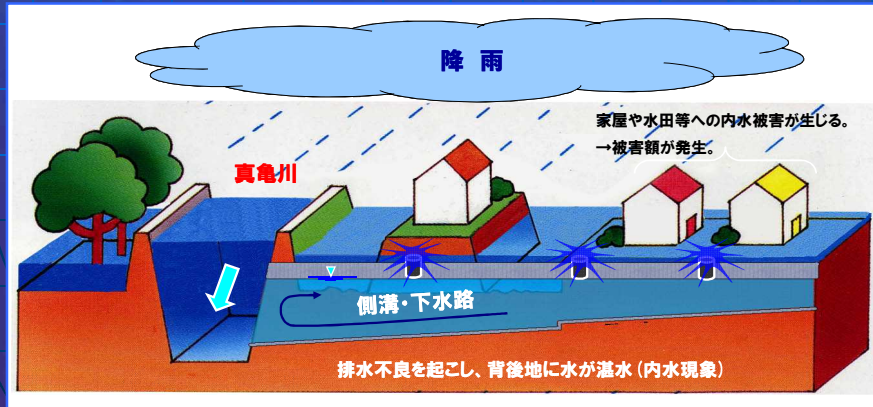


### 3. 真亀川の現状 (「内水被害」のメカニズム)

- ①流域の雨水が真亀川に流入 ⇒ **真亀川の水位上昇**
- ②真亀川水位が上昇 ⇒ 側溝・下水の水が溢れ**排水不良**を引き起こす



地盤の低い地域から家屋や水田などが**浸水**する「内水被害」が発生



### 4. 事業の必要性に関する視点

#### ① 事業を巡る社会情勢等の変化

##### 社会経済情勢

- 東北地方太平洋沖地震後、河口付近の人々は大きな不安を抱え、防災に関する意識は向上した。
- 流域内の開発等による市街化の増加
- 洪水位が高く、東金市街地が排水不良となる内水被害が発生。

##### 地形状況

- 真亀川の河口部の流域は低平な地形となっている。
- 真亀川の下流部は、堤防高が2～2.5m程度である。
- 真亀川の上流部は、山地部の1/500～1/1000という急勾配から、JR東金線付近を境に、九十九里低地部の緩勾配に急激に変化する。

#### 4. 事業の必要性に関する視点

##### ② 事業の投資効果 事業の投資効果検討方法

**総便益の算定 (B)**  
(被害が解消される事によってどれだけの恩恵を受けるかをお金に換算した結果。)

**総費用の算定 (C)**  
(建設費や維持管理費など、事業を行う為に必要なお金)

#### 改修費用の妥当性評価

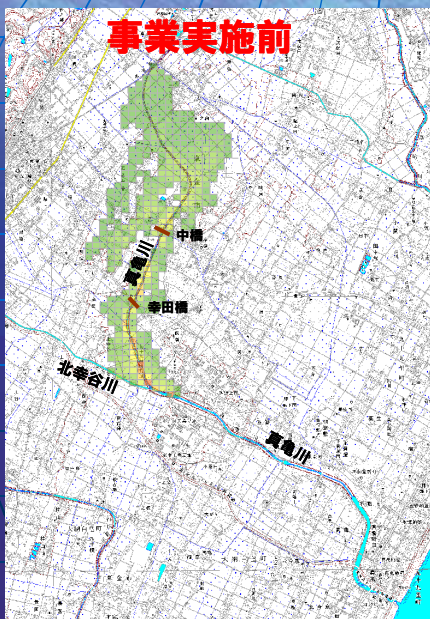
※費用対効果(総便益B/総費用C)の算定。  
※投資した費用に対して得られた効果

- B/C=1以下：投資に見合った経済効果が無い。
- B/C=1：投資に見合った経済効果を発揮。
- B/C=1以上：更に高い経済効果が発揮される。

14

#### 4. 事業の必要性に関する視点 (洪水対策)

##### ② 事業の投資効果 (全体事業) 事業の投資効果検討方法



基準年：平成14年度

- |             |       |
|-------------|-------|
| ① 想定浸水区域    | 451ha |
| ② 想定浸水区域内世帯 | 97世帯  |
| ③ 想定浸水区域内人口 | 305人  |

河川改修事業の  
実施

浸水被害  
の解消

15